

市政二ニュース

（仮称）八チゴロウの戸島湿地 野鳥観察棟を市へ寄贈
生きものとの共生は同じ目線で見ることから

2月26日、水面に浮く「野鳥観察棟」が（仮称）八チゴロウの戸島湿地に完成し、寄贈式が行われました。

この野鳥観察棟は、財団法人宝くじ協会の助成を受けた財団法人リバーフロント整備センターが建設しました。

地盤の緩い湿地に野鳥観察施設を設けるにあたり、日本大学生物資源科学部の系長浩司教授に協力いただき、湿地水面に浮く野鳥観察棟を実現これにより、水辺に集まる水鳥などと同じ目線で、コウノトリや野鳥をはじめとする生きものが観察できるようにな



▲野鳥観察棟の観察窓から湿地を眺める中貝市長



▲水に浮く野鳥観察棟

りました。

式典では、リバーフロント整備センターの前田光雄理事が「水に浮く野鳥観察棟を活用し、湿地や川に親しみを持ってもらえたらうれしい」と話すと、目録を受け取った中貝市長は「木の香りがするすてきな建物を寄贈いただき感謝しています。そと野鳥が観察でき、湿地のシンボルになります。早くここでコウノトリを観察してみたい」と笑顔で答えていました。

たけのスタイル推進協議会が発足 体験型環境旅行誘致に新戦略

2月22日、豊かな自然環境と豊富な地域資源を活用した体験型環境旅行の誘致を積極的に推進するプロジェクト「たけのスタイル」の推進協議会設立総会が、竹野北前館（竹野町竹野）で開催されました。

この「たけのスタイル」は、北前館総支配人やたけの観光協会会長らが発起人となり、町内外の事業者から会員を募り、自然豊かな竹野町の魅力を生かした体験型旅行を提案するものです。

主に中学・高校生の修学旅行に狙いを定め、旅行者の受け付けから宿泊先の紹介、浜辺での塩作りやスノーケル、里山体験、農業体験などの体験メニューの提案などを一体的

に行います。

設立総会では、たけの観光協会会長の岩井美晴さんが「天の時、地の利、今がその時、竹野の発展のために頑張りたい」と力強くあいさつし、中貝市長は「このプロジェクトは必ず成功します。市も全力でバックアップします」と激励しました。



▲（右）中貝市長、（左）岩井美晴さん、（中央）たけのスタイル推進協議会代表のあいさつ、（左）中貝市長、（右）岩井美晴さん、（中央）たけのスタイル推進協議会代表のあいさつ

但馬緑化協会豊岡支部と災害協定締結 災害時の応急対応業務に強い味方

2月25日、災害発生時の防災活動を円滑に進めるため、但馬緑化協会豊岡支部（支部長 荒田美穂さん、会員10事業者）と災害協定を締結しました。

この協定により、災害時、市の要請に応じて、同支部から倒木等に伴う障害物の除去作業等に際しての建設資機材等の提供を受けることができます。

（主な市政の動き）

【2月】

16日・第5回東井義雄賞いのちのこぼれ入賞作品発表会・記念シンポジウム

17日・山本かなえ経済産業大臣政務官が、環境共生・農工商連携促進のため視察来市

19日・但馬地域政策懇話会

20日・韓国小・中・高校教師視察研修団来市

22日・たけのスタイル推進協議会設立総会

24日・とよおか津居山港かにまつり

25日・但馬・播磨広域観光推進フォーラム

26日・芝居小屋「永楽館」こけら落とし講演記者発表

26日・但馬緑化協会豊岡支部と災害協定締結

26日・（仮称）八チゴロウの戸島湿地 野鳥観察棟「寄贈式」

29日・ものづくり講演会

【3月】
3日・平成16年災害復旧・復興事業竣工式

8日・防犯と環境フォーラム

11日・香住・出石町伊豆にコウノトリ人工巣塔設置

12日・但東町唐川にコウノトリ人工巣塔設置

一般県道十戸養父線 珍坂トンネルが開通

日高と八鹿を結ぶ新アクセス道路に期待

3月23日、日高町知見と養父市八鹿町馬瀬^{まぜ}を結ぶ一般県道十戸養父線 珍坂トンネル^{ちんざか}（事業延長2、772メートル、うちトンネル延長1、563メートル）が開通しました。

平成13年度に着手したこの事業は、初め豊岡市と養父市が市道知見八鹿線としてトンネル本体および取り付け道路工事を行い、その後、県が引き継いで県道十戸養父線の改良事業として舗装など仕上げ工事を行ったものです。

両市が事業主体となったトンネル工事では、民間業者が発注者（市）の利益を考慮して設計の検討、工程・品質・コスト管理、関係機関の調整などの業務を代行するCM（コンストラクション・マネジメント）方式を全国の自治体で初めて採用し、関係者の耳目を集めた話題となりました。

この珍坂トンネルの開通により、交通不能区間が解消され、災害時における緊急避難路および国道312号の代替

路線が確保されるとともに、両市の地元地域では、相互の交流と地域の活性化が図られることが期待されています。



県立豊岡総合高等学校からジオラマ、兵庫県立コウノトリの郷公園の寄贈を受ける

コウノトリになつた気分でご覧ください

2月22日、県立豊岡総合高等学校から、県立コウノトリの郷公園のジオラマ（立体模型）を、市立コウノトリ文化館に寄贈いただきました。

このジオラマは、県立豊岡総合高等学校環境建設工学科建築専攻の昨年度の3年生10人と、今年度の3年生の7人により2年がかりで作成されたもので、縦200センチメートル、横136センチ

メートル、高さ45センチメートルの亚克力ガラスケースに入れられ、コウノトリの郷公園区域を約1000分の1の縮尺で作成されています。

寄贈セレモニーで、生徒を代表して出崎智絵美さんは、「完成してうれしいです。一般公開されていない場所も含めた全体像を知ってほしい」と話し、贈呈を受けた松島興治郎館長は、「環境学習などに役

立てたい」と答えていました。



▲県立豊岡総合高校の生徒らと寄贈を受けたジオラマ

中貝市長の徒然日記⑦

豊岡から日本が変わる!?

元氣の出る本を2冊。

1つは、東京大学の保全生態学の教授である鷺谷いづみさんが編集された「コウノトリの贈り物」です。この本の中で、鷺谷さんは「環境S.F.」と自ら呼ばれる物語を書いておられます。

50年後の日本のある町のお話です。豊岡で放されたコウノトリが40年ほど前から各地に移住を始めていました。その町には、星が流れる日にコウノトリがやってきます。コウノトリに選ばれたのです。

人々は喜び、自然再生をさらに進め、今では常時数十羽が住むほどに自然が豊かになっています。そのころ、5月20日は日本の「自然共生社会の日」に指定されています。50年前に豊岡で43年ぶりにコウノトリのヒナが生まれたその日は、日本の自然共生社会への転換にとって象徴的な日だからだそうです。

鷺谷さんのS.F.は、豊岡から各地に飛び立ったコウノトリが地域を変え、日本を変える、という希望に満ちたシナリオになっています。もう1つは、日本野鳥の会の会長であり、コウノトリファンクラブの会長でもある俳優の柳生 博さんの「和暦で暮らそう」という本です。そのあとがきの中で、柳生さんは豊岡を褒め称え、豊岡の人々の情熱と意識・教養の高さに感動させられる、と書いておられます。

「豊岡はターニングポイントです。そして、コウノトリはそのシンボルです。遠からず、日本の歴史が豊岡から変わります」

環境問題が大きな課題となり、絶望感すら漂う中で、豊岡の人々の努力が、世の中を勇気づけているのです。こりゃ、もっと頑張らなくっちゃ。豊岡は、5月20日を「生きもの共生の日」にします。

